

平成26年度「札幌くらぶ総会」開催のご案内

会員の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げますとともに、日頃から札幌くらぶの運営にご理解とご協力をいただき、また、札幌交響楽団に対する温かいご支援に厚くお礼を申し上げます。

さて、平成26年度札幌くらぶ総会及び交流会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

当日、総会終了が昼食ときに当たりますので、ご希望者に軽食をご用意させていただきます。

また、第569回定期演奏会S席のチケットを、総会に出席される会員で、ご希望の会員に先着10名様にプレゼントいたします。

チケットは、5月10日(土)、11日(日)の

- 2日間午前9時から、電話011-563-6460(武藤)にて申し込みを受け付けし、総会受付にてお渡しいたします。
- 1. 総会**
 日時 平成26年5月31日(土)
 午前10時30分から午後12時30分
 場所 札幌コンサートホール2階大会議室
 - 2. 交流会**
 日時 平成26年5月31日(土)
 午後4時30分から
 場所 テラスレストラン・キタラ
 会費 お1人3,000円
 - 3. 総会出欠等の連絡**
 同封の平成26年度札幌くらぶ総会出欠票ハガキ(兼委任状、交流会参加申込書)にて、総会の出席、欠席、軽食の申込、総会欠席のときの議長への委任状の署名、交流会参加のときの申込書に参加者名を記入して、5月21日(水)までにお送りくださいますようお願いいたします。



キ(兼委任状、交流会参加申込書)にて、総会の出席、欠席、軽食の申込、総会欠席のときの議長への委任状の署名、交流会参加のときの申込書に参加者名を記入して、5月21日(水)までにお送りくださいますようお願いいたします。

(事務局長 武藤義典)

第5回札幌くらぶサロン開催

第5回札幌くらぶサロンが、1月18日(土) 17:30より札幌市教育文化会館(北1西13) 402号室で33名が参加して開催されました。その様子をご報告致します。

最初に札幌第1ヴァイオリンの河邊俊和さんから札幌くらぶサロンへの温かい応援メッセージをいただきました。このサロンが会員と楽団員で築き上げてきている事を実感できました。



札幌第1ヴァイオリンの河邊俊和さん

第1部の「札幌を裏で支えるプロフェッショナル」では、札幌ステージマネージャーの田中正樹さんをお招きして、舞台裏のお話をナビゲーターの竹津さんとともにたっぷり伺う事ができました。地方公演の狭い会場での楽器の配置やソリストの位置決め、ライブリアン時代の札幌くらぶ楽譜支援が始まった経緯、田中さんのリクエスト曲ブリテンの「ビーター・グライムズ」を聴きながら、そ



ゲストのステージマネージャー 田中正樹さん

の公演の大きな舞台でご苦労なされた事や感動した事のお話などたくさんエピソードを語っていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

第2部は「札幌アークイブ・シリーズ」で皆様からいただいたリクエストより選曲しナビゲーターを竹津宜男さんに。1曲目は2010年4月の第528回定期「ヤナーチェク」シンフォニエッタ、指揮はラドミル・エリシュカ、札幌コンサートホール、2曲目は1967年5月の第62回定期のブラームス「セレナード第一番」、指揮は荒谷正雄、札幌市民会館、3曲目は2009年6月の第520回定期「オルフ」カルミナ・ブライナ、指揮は高関健、札幌コンサートホール、4曲目は1969年4月の第83回定期のモーツァルト「フルート協奏曲第二番」、指揮は山岡重信、フルートはオー

レル・ニコレ、札幌市民会館の4曲でした。

リックエストいただいた木立さん、稲村さん、高橋さん、村山さんそれぞれからライブで聴いた当時のお話をいただきました。「好きな作曲家があまり聴く機会がないので良かった。」「この曲のレコードを全て持っているほど好きです。」「かなり興奮してそのままスキノに飲みに行った記憶がある。」「学生時代にこの曲を聴いた後、バイトしてフルートを買った。」「など、名演奏であったことを改めて確認できた素晴らしいメッセージばかりでした。

第3部は「交流パーティー」で、ゲストの田中さんのご挨拶と乾杯で始まり、冷たいビール・美味しいワイン・旨い日本酒とオードブルをいただきながら、札幌と音楽をいっしょに語り新年早々に盛り上がりました。

(上野)



交流会で乾杯をする参加者の皆さん

5月〜7月の定期・名曲シリーズ演奏会 演奏会を楽しく聴くために

八木 幸 三(札幌くらぶ会員)

森の響フレンドコンサート

札幌名曲シリーズ vol.1

5月17日(土) 14:00
札幌コンサートホール大ホール
指揮/佐藤俊太郎
ピアノ/伊藤 恵



佐藤俊太郎



伊藤 恵 ©武藤 章

■ショスタコーヴィチ/祝典序曲

筆者は、今から40年以上前に高校の吹奏楽部でこの曲を演奏したことがある。勇壮なファンファーレに続き軽快に滑走する旋律を持つためか、当時は吹奏楽のオリジナル作品だとばかり思っていた。作曲家は、この作品について「戦争時代の辛苦を経験した人間の心情」「新5カ年計画建設事業にお

ける、平和な労働者の気概」を表現したかったと述べているが、いかにも社会主義体制のなかでつくられた高揚感をかき立てる作風だ。

■ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第5番変ホ長調「皇帝」

第1楽章冒頭から独奏ピアノがカデンツァ風のアルペッジョを弾きまくり、その後の堂々とした主題が管弦楽で奏でられるこの曲は、まさにピアノ協奏曲の王様だ。この曲が作曲された1809年ごろは、ウィーンにナポレオンが攻め込み、ベートーヴェンは砲火の中で作曲をしていた。しかし、この曲には悲壮感は見じんもなく、「運命」「田園」を作曲した直後のベートーヴェンの覇気さえ感じさせる。「皇帝」という副題は、後

の人が勝手に付けたもの。もし、作曲家がこの副題を聞いたら「皇帝? それはひょっとして僕のこと?」と自信ありげに言うかもしれない。

戦争交響曲「ウェリントン勝利」

ベートーヴェンは、スペインにおけるビトリアの戦いで初代ウェリントン侯爵アーサー・ウェルズリー率いるイギリス軍がフランス軍に勝利したことを受けて、ウェ

リントン侯を讃える曲を作曲した。この曲は、革新性に満ちたベートーヴェンだけあって多数のマスケット銃と2門以上の大砲を使用することを指定している。1813年暮れにベートーヴェン自身の指揮で初演されウィーンの聴衆は大喝采をおくった。

1812年は、ナポレオンがボロジノの戦いでロシア軍を粉砕し、モスクワに攻め入ったものの、冬將軍の到来とロシア首都モスクワで敗退した年である。この物語を管弦楽で描いたのが、この曲で主題にはフランス国家「ラ・マルセイーズ」やロシアの民謡や国歌を用いている。しかし、1812年には、まだ「ラ・マルセイーズ」は国家に制定されていなかったし、ロシア国歌は1830年に作曲されていたのでまだできていないことになる。しかし、いずれにしてもその壮大な曲想が人気を呼び、大太鼓の代わりに祝砲が撃たれることもある。

第569回札幌定期演奏会

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

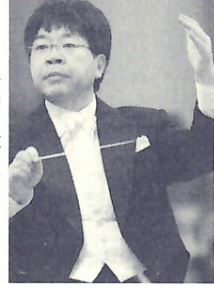
〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

伊福部昭生誕100年記念

5月30日(金) A日程19:00
5月31日(土) B日程14:00
札幌コンサートホール大ホール
指揮/高関 健
ヴァイオリン/加藤 知子



高関 健 ©V.Barunovsky



加藤 知子

■伊福部 昭/日本狂詩曲

今年、北海道に縁が深い伊福部昭、早坂文雄の生誕100年。二人の作品が定期演奏会で取り上げられることは意義が大きい。膨大な映画音楽を作曲した伊福部は、純音楽でも邦人作曲家として世界ではじめて認められた。その記念すべき作品が「日本狂詩曲」。この作品は、彼が21歳のときの作品でチェレピン賞で見事第一位となり昭和11年ボストンで初演され、彼の名は国際的なものとなった。この曲は、ヴァイオリンを小脇に抱え、親指で和音をピツィカートしたり、ヴァイオリンの駒

の後を弾くなど、世界的にもはじめての奏法が用いられるなど画期的な作品なのだ。

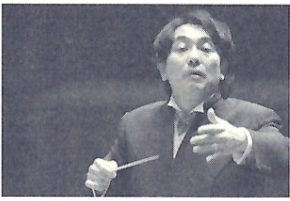
「ゴジラ」テーマの原曲とも言われるヴァイオリン協奏曲第1番は、チェコのブルノ・フィル・コンサートマスター小林武史の委嘱により彼の独奏で初演された。幽玄なヴァイオリン独奏ではじまるこの曲は、生命の息吹を感じさせるオケの力強いリズムも加わり土俗的な伊福部節が随所に聞こえてくる。若い頃からヴァイオリンに親しんだ作曲家だけに、この楽器の特性が良く生かされ、今回の独奏者加藤知子の超絶技巧がおおいに楽しんだ。

この曲は、「日本狂詩曲」に続く伊福部の2番目の管弦楽作品で、当時林務官として厚岸で生活する中、この地で土俗的な生活への共感から生まれた作品である。3つ楽章から成っているが、各楽章にはアイヌたちの持つ律動の呼び名として「JIMKUU」や、アイヌ語で「背負う」という意味の「PAKKAJ」などのことばがついている。

伊福部は、教育者としても優れた多くの作曲家を輩出した。東京芸大や東京音大(後に学長)に務

めながら芥川也寸志、黛敏郎、矢代秋雄、松村禎三といったそうそうたる教え子が連なっている。また、「管絃楽法」という作曲家にとってバイブルのような著書も残している。「シンフォニア・タプカーラ」は、作曲家40歳の脂がのりきった時期の作品で、そのオーケストレーションは、重厚で楽器の特色が良く生かされた傑作だ。アイヌ舞曲をもとに書かれたタプカーラは、最後の拍に重みが置かれ実に躍動的な楽想が楽しめる。

森の響フレンドコンサート
札幌名曲シリーズ vol.2
6月7日(土) 14:00
札幌コンサートホール大ホール
指揮/山下 一史
チェロ/ミハル・カニユカ



山下 一史 ©K.Miura



ミハル・カニユカ

■グリーンカノ「ルスランとリュドミラ」序曲

グリーンカノは2つのオペラしか残さなかったが、「ロシア・オペラの父」と呼ばれている。プーシキンの叙事的作品に基づく歌劇「ルスランとリュドミラ」は、プーシキンが決闘によって急逝したため、台本よりも作曲が先行してしまふ。難産の末生まれたこのオペラは、ロシアの民謡が多用され、序曲もロシア的要素がふんだんに取り入れられ、まさにロシア国民楽派の先駆けとなった。

■チャイコフスキー／ロココ風の主題による変奏曲

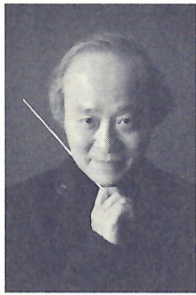
モスクワ音楽院教授でチェリストのウイヘルム・フィッツェンハーゲンの助言を受けながらチャイコフスキーは、敬愛するモーツァルトへの憧れを込めて、ロココ風様式によるオリジナル主題を7つの変奏曲でまとめ上げたのがこの曲だ。しかし、親友でもあったフィツェンハーゲンは、チャイコフスキーに断りもなく改訂を施し、改訂版が最初の楽譜として出版され、それが世界中に流布された。原典版も演奏される機会が増えており、その美しい主題とチェロの巧みな変奏は、チェリストにとってはかけがいのないレパートリーになっている。

■リムスキー・コルサコフ／交響組曲「シェエラザード」

手塚治虫の映画「千一夜物語」は、アニメの技法を駆使して見事に妖艶な描写がされていた。この交響組曲「シェエラザード」も壮麗なオーケストレーションにより「アラビアン・ナイト」の神秘的で極彩色な物語絵巻が描かれている。4つの物語による4つの楽章で構成され、物語に関連性はないが威厳に満ちた荒々しい「シヤリアル王の主題」とヴァイオリン独奏によって奏でられる美しい「シェエラザードの主題」が、全楽章を通して有機的に用いられ、作曲者の実力が遺憾なく発揮された名曲となっている。

第570回札幌定期演奏会

6月27日(金) A日程19:00
6月28日(土) B日程14:00
札幌コンサートホール大ホール
指揮／尾高 忠明



尾高 忠明 ©Martin Richardson

ソプラノ／安藤赴美子
メゾ・ソプラノ／加納 悦子
テノール／吉田 浩之
バリトン／福島 明也
合唱／札幌合唱団、札幌放送合唱

団、ウィステイリアアンサンブル、どさんこリアリーズ



安藤赴美子 ©大野純一



加納 悦子



吉田 浩之 ©Eiji Shinohara



福島 明也

■ヴェルディ／レクイエム

CMなどで誰もが一度は耳にしているであろう「デイエス・レ」の旋律が印象的なこの曲は、彼が尊敬していたロッシーニやイタリヤの詩人マンゾーニの死が

きっかけとなり作曲された。ヴェルディ自身の指揮による初演は大きな成功を収め、その後彼は、この曲をひっそりとしてパリ、ウィーンなどヨーロッパ主要都市を回ることになる。公演を重ねるうちに劇

的でオペラ的な雰囲気、この作品の善し悪しの論点ともなったが、ヴェルディにしか書けない特別な雰囲気を持つ「レクイエム」であることは確かだ。
(写真協力／札幌交響楽団)

第566回定期を聴いて ポストホルンに至福の時

第566回定期の演奏曲目にモーツァルトのポストホルン・セレナードが出ていたので、かなり前からぜひ聴きたいと思っていたところ、1月28日付道新の夕刊に、今回の演奏に用いられるポストホルンの楽器の由来とそれを演奏される札幌トランペットの首席福田善亮さんの話が出ていたのを見て、これは聴き逃せないと思い、2月1日のマチネを聴いた。

当日のプログラムは3曲で、まず序曲代わりに、ハイドンの交響曲第55番「校長先生」が演奏された。おそらくバームレートの推薦もあって札幌初演が決まったのではないかと思われる。第3楽章のセロの長く美しいパッセージが印象に残った。

2曲目は韓国の若手ベク・ジュアンを独奏者に迎えてのブルッフのヴァイオリン協奏曲第1番。これは札幌が平成23年5月のヨーロッパ公演で諏訪内晶子と協演したのと同じ曲で、小生はこの公演日程の一部に同行したが、5月26日にミラノのテアトロ・ダル・ヴェルメで聴いた名演を思い出した。今回はそのときの余韻が、指揮者は替わっても札幌のメンバーにはまだ残っているようで、ヴァイオリンとヴァイオラについては最後のブルトまでよく揃ったボーイングは見た目にも心地よく、オーケストラ全体、余裕を持って膨よ

かな音が出ており、協奏曲の伴奏とは言え正に札幌の十八番と言える演奏であった。ベク・ジュアンのヴァイオリンはこの伴奏に乗って美しい音を奏でていた。
休憩の後は、モーツァルトのセレナード第9番「ポストホルン・セレナード」(K320)。演奏時間約43分の大曲であり、定期演奏会でこの曲が演奏されるのは今回が初めてであった。このセレナードは、モーツァルトの祝典音楽としては2管編成の大規模なもので、ザルツブルク大学の学期修了に伴うフィナーレムジークであったとするのが定説になっている名曲である。トランペットの福田さんは、トランペットを持たずポストホルン(郵便馬車の発着合図のラッパ)のみを持って舞台の上段、向かって左端に登壇された。ポストホルンの出番は、第6楽章のメヌエットの後半のわずか3分ぐらいの短いフレーズのみであるが、由緒深いポストホルンの音を、控え目な大ききでホール一杯に響かせておられた。このセレナードは、ホルンを含む木管楽器の多彩な音色と、トランペットとティンパニーが軽やかに弾むリズムが特長で、この美しい音の流れに暫し至福の時を過ごさせてもらった。ところどころアンサンブルの乱れがあったがよしとしよう。
(札幌くらぶ会員 川端習太郎)

ヴィオラの音に魅せられて



《プロフィール》

兵庫県姫路市出身。桐朋学園大学、ケルン音楽大学、同大学院修士課程に学ぶ。パブロ・カザルスほか国際音楽祭に多数参加。ハイリゲンベルク国際音楽祭で最優秀演奏家賞を受賞、ハンゼン財団より名弓サルトリーを1年間貸与される。デュッセルドルフ響、アーヘン響副首席奏者、南ウエストファリア・フィル及びプファルツ歌劇場管で客演首席奏者を務めたほか、ドイツを中心にソリスト、室内楽奏者として活躍。2012年札幌交響楽団に入団。

♪ 楽員さんに 興味津津！ ① ♪
♪ ヴィオラ副首席奏者 青木晃一さんに聞く

最初の楽器は何ですか？

四つ上の姉がヴァイオリンを習っていて、僕も姉のまねっこみたいな感じで小学校1年からヴァイオリンを習い始めました。でも子供だから集中力がなくて、し全然練習しませんでした。毎週土曜日にレッスンだったのですが、前日の夜に先生に言われたことを全然直してなくて、うわぁどうしよう。

いつ頃からプロを目指すことに？

子どもの時は音楽の道を進もうなんて思っていないんですけど。中学でもヴァイオリンは細々と続けていたので

すが、やっぱり音楽をやるといったら本当に英才教育を受けていないと無理だろうなと親も僕も思っていました。勉強は嫌いじゃないし楽しいし、成績も悪い方ではなかったので地元の進学校といわれるところに進みました。

ヴィオラを始めたのは？

ヴァイオリンの高い音、一番線の輝かしいカーンという音が自分はいやで、人の演奏を聴くのは好きです、すごく素晴らしいし、でもそれが自分の耳元で鳴っているのがいやで、違う楽器をやりたいなど。たまたま家に安物のヴィオラがあつて、我流で弾いて遊んでいました。6年生の時、小遣いで初めて買ったのがヴィオラ

強し始めて、今考えたらよく頑

のCDだったんです。

それはまったく偶然に？

姫路のCDショップにボンと飾ってあったのが後に僕の師匠になるライナー・モークのCDだったんです。

ヴィオラのソロのCDなんかあ

♪ モーク先生との運命の糸

張ったなど。

二両親が音楽の先生だった

父がフルートで母がピアノです。入学試験のためにピアノをちよつと手伝ってもらいました。入った大学はすごくレベルが高くて、ついでいくのに必死でした。だから夏休みが常にステップアップの期間でした。

1年生の時はトマムの講習会、2年生の時はサイトウキネンの室内楽勉強会に参加しました。でも3年生の時、何もプランが無く、岡田先生に相談しましたら、「それならヨーロッパへ行つて来い、自分の先生のライナー・モークを紹介するからレッスンを受けて来いよ」と。

えっ！と思つて。モーク先生はなんと岡田先生の先生だったんです！

いよいよレッスンを受ける

はい。でも、モーク先生のレッスンはむちゃくちゃ怖くて、もうけちよんけちよんにけなされました。何が一番ショックだったかって基礎的なことが何もできていないと言われ、技術の事を全部直されました。フランスのクールシユヴェールというモンブランが見える街で2週間。厳しかったけれど、来年もまた絶対来ようと思える魅力的なレッスンでした。あんなレッスン出来る先生は他にいないと思ひ、一年後のためにアルバイトをしていましたら翌年の夏の奈良の音楽祭にモーク先生が来ることばかり、レッスンを受けに行きました。そして、「元気？」って。「僕のこと覚えていますか？」って言ったら、「覚えていないよ、そりゃ」って。本当かと思つたんですけど、最初のレッスンで曲を一通り弾き終わると、「去

♪ そしてケルンに行く決心を

最初のうちは大変でした。言葉も全然話せなかつたです。ケルン音大には実技試験では合格したのですが、半年間強制的に語学学校に通われました。でも、それは本当に自分のためになって、音楽を志すいろんな国の学生が参加

モーク先生にダメ元で片言の英語で、卒業したら先生のところに留学して弟子にしてほしいと言いましたら、「いいよ、入試は来年の6月だから君、おいで」と。そんなあつけない二つ返事で。ドイツの生活はどんなでしたか？



札幌くらのクリスマス交流会で

年僕が注意した右手のテクニクが良くなっているよ」と。

本当に覚えていてくださった

それが嬉しくて、この人はすごいと思ひました。レッスンはやっぱり厳しかったですね。とにかく妥協しない。一つのことが出来るようになるまでは絶対その事はやりつづめて指摘するんです。そこが出来る様になってようやく次のステップ。だから一つ一つ本当に着実に基礎を踏み固めていきました。それは一生の財産です。

していました。
レッスンは全部ドイツ語ですか？
はい。僕の先生はかみ砕いて教

♪ 偶然だった札幌との出会い

ドイツには何年いたのですか？
合計7年です。ケルンで3年勉
強しまして、その後4年間、デュッ
セルドルフとアーヘンの歌劇場の
オーケストラで演奏しました。

そこで札幌公演を聴いたのですね
札幌ヨロップバッターの最終地
がデュッセルドルフでした。正直
に言いますと最初から札幌目当て
だったわけではなく、ケルン音大
の同級生だった白子君と桐朋学園
大の1学年下の武田さんが所属し
ているので、どんな演奏している
んだらうみたいな好奇心で聴きに
行ったのです。

予想をはるかに上回る演奏で感
動しまして、翌日白子君とケルン
で会って本当に素晴らしかったよ
と。その時、札幌のヴィオラに空
席があると聞き、ちょうどオーケ
ストラのオーディションを各地で
受けていましたのですぐ飛びつき
ました。本当に偶然でしたね。
一次は録音審査だと聞きました
ので、すぐ音大でCDに録音して
応募しました。すると一次合格の
メールをもらい、8月に札幌へ。
合格するなんて思っていなかっ
たんですよ、夢にも！

それが初の札幌ですか？

えるのがすごく上手で、初心者で
もわかるようにジェスチャー付き
で教えてくれました。

初めての札幌は高校の修学旅行
です。小樽、札幌、ニセコへ行き
ました。7月で本州は梅雨の真っ
最中、毎日じとーっとしているの
に、飛行機を降りるとスカッと晴
れて風も乾燥していて心地よく
て。オーディションは芸術の森ア
リーナでしたが、その時も8月の
終わりですごく涼しくて。

キラにはいつ？

オーディションを受けた次の年
(2012年)の4月、札幌にエ

♪ 歌うように弾きたい

札幌に入って一年半です

僕が所属していたのは歌劇場
だったのでオペラがメインで、札
響の団員さん達が普通に覚えて弾
いている第九とか新世界とかほと
んどやったことがあります。皆
さんは本当に慣れて弾いて
いるので、その流れに乗って一緒
に弾いていたら自然に弾けるよう
になるのも早かったですね。

実は僕、ヴィオラも好きなんで
すけど、一番好きな楽器は、楽器
というか人の声なんです。

マリア・カラスが好きだと…

大ファンですね、生で聴きた
かったです、本当に。残された録



いつもマリア・カラスの写真と共に
キストラで来た時です。自分の人
生の中でこれ以上のホールはな
かったですね。芸術の森も今まで
のオーディション会場の中では段
違いに良くて、すごく気持ちよく
弾かせてもらえました。

音を聴くと、この人は音楽の事が
全部わかっているって思うんで
す。どの楽器のどの演奏家よりも
本当に心から演奏している。もう
人間業じゃない。だから音楽的な
表現でちよつと行き詰った時とか
に彼女の声を聴きますね。

他にも好きな歌手がいます、
キヤスリン・フェリアというイ
ギリスのアルト歌手なのですが、
すごく低い女性の声で。
彼女の声は本当にヴィオラの理
想の音みたい。ヴィオラを弾く時
もいかに人の歌う声に近づけられ
るかということを考えています。

ご自身が歌うのは？

好きです。演歌からきりぎり
みゆはみゆまで。近くのカラオケ
で一人で歌ったりします。歌って
いると気持ちがいいし、そのあと
楽器を弾くと本当に歌っているよ
うに弾けます。

実は演歌が大好きで、3歳のこ
ろから祖父と一緒に歌っていまし
た。おじいちゃんは演歌がすごく
好きで、趣味でマンドリンを弾い
たりしていたのですが、五木ひろ
しや千昌夫の一時間位のテープを
まだ物心つくつかつかないかの時に
聴いて、全部そらで覚えて歌っ
ちゃうようになりました。

だから先日、歌謡チャリティコ
ンサートで初めて五木ひろしを生
で見と一緒に演奏して、ああ、やっ
ぱりすごいな。演歌は日本人の
心だと思えます。

クラシックにも通じるところが
あって、ジプシーの音楽などは結
構演歌に近いものがあります。

音楽以外に好きな事は？

札幌は各地に演奏旅行に行くの
で、そこで温泉に入ったりおいし
い特産物とか食べたり。海産物は
もともと好きだったんですけど、
北海道はやっぱり段違いにおい
いです。

ドイツにいた時も、デュッセル
ドルフは日本人も多く住んでい
て、駅前が日本人通りと別名がつ
くくらい。そのラーメン屋さん
で札幌ラーメンを食べるのがすご

く好きでしたし、アーヘンは温泉
で有名な街でした。温泉もおいし
いのも大好きです。

インドア派？アウトドア派？

演奏家なのでこもって練習する
時間もとらなくちゃいけないし、
でもそればかりだとおかしくな
っちゃうので気晴らしに散歩し
たり演奏会に行ったり美術館に
行ったり。

本を読むのも好きです。ドイツ
に行ってからよく読むようになった
のですが、最初に読んだのが『田
辺聖子の小倉百人一首』。上品な
文章で。いろいろ読みますが、い
いなと思うのはやっぱり日本人の
感性で書かれている作品ですね。



モーク先生(左端)とモーツァルトを共演

共演したい方はいますか？

現役の演奏家で一番尊敬してい
るのは自分の師匠。そのモーク先
生と2013年の8月にドイツの
音楽祭で共演出来たんです。モー

ツァルトの弦楽五重奏でした。僕
が以前受講した時に賞をもらっ
て、その副賞が弓の貸与と先生た
ちとの共演だったのです。もう70
才過ぎてなのにパワフルでエネ
ルギッシュ、僕の方が必死に付い
ていかなきゃいけない。すごい体
験でした。衝撃を受けました。

そういう世界のトップの人たち
と一緒に演奏させてもらうと、何
か自分の中から引張り出される
んです。自分の持っていない力、
ふだん出していない力を引き出し
てもらってステップアップでき
る。一番嬉しいのってそういう時
です。

札幌でも、海外から素晴らしい
アーティストが来て目の前で指揮
や演奏をしてくれる。毎回すごく
貴重な体験をさせてもらって、本
当に感謝してもしきれないくらい。

室内楽やソロ活動もしています

ヴィオラ弾きって、オーケスト
ラでも室内楽でもソロでも、それ
ぞれの違う役割を楽しめる。今は
自分にとって新しいレパートリー
を作る機会が毎回何かしらあるの
がすごく嬉しい。そういう
チャンスを与えてもらっているの
で、オーケストラも室内楽もソロ
もできる限りたくさんやっていき
たいと思っています。

(2013年12月14日テラスレス
トランキタラにて。担当/井上・
岸田・中居)

札幌物語 65

札幌の50年を振り返る(8) 練習場

(5 真駒内時代、真駒内に登場した大家達)

竹津 宜男 (札幌くらぶ会員)



真駒内青少年会館のホールが札幌の練習場だった頃は海外の大物指揮者やソリストとの共演の機会に恵まれた時代でもあった。1974年12月第144回定期演奏会に登場した指揮者テオドール・グシュルバウアーは当時フランスのリヨン歌劇場首席指揮者を務めていた。まだ30代の気鋭の指揮者で本番の直前までチューニング・マシンを手にチェロやコントラバス奏者を一人一人調整させて歩いていったのが印象に深い指揮者だった。そのほぼ四半世紀後、1997年5月第391回定期、キタラホールがオープンする2ヶ月前、オルガンのパイプを建設中の時、再び登場した。その時はストラスブル・フィルの首席指揮者だった。P.M.F事務局(当時キタラの中にあつた)に務めていた私を訪ねて来たので建物だけ完成していたホールの中を案内した。歩きながら「札幌は柿落とし何を演奏するの」と聞かれたので「サン＝サーン

スの「オルガン交響曲」の予定です」と答えたら「オルガンがあるの。何処のオルガン」と問われ「フランスのケルン社ですよ」と答えたら。「え、わが町のオルガンだ。出来たばかりの我がコンサートホールにはオルガンが付いてなくてその町のオルガンが札幌に出来るとは」と言いながらホールに入り仕事中のケルン氏と出会うハグしていた。ケルン氏は我々2人のために「出来上がっているパイプだけで演奏するから聴いて」と何かの曲を演奏してくれた。2階客席で隣に座ったグシュルバウアーが「これは○○パイプの音だ」と解説してくれた。

1975年9月の第152回定期には札幌事務局から直接オランダのデン・ハーグに電話を掛けてユベール・スタイン(現在東京交響楽団の音楽監督、2015年1月札幌定期指揮者)を呼んだ。29歳のスタインはホテルに泊まらないで友人のいる北大の外人宿舎へ泊まった。毎朝北大の門の前の喫茶店で落ち合ってエンジン音のうる

さい私の軽自動車に乗って大声でしゃべりながら真駒内へ通った。翌1996年には老大家ワルター・ジュスキントが若い奥さん連れで現れた。ホルンの名手デニス・ブレインが演奏するモーツァルトのホルン協奏曲のレコードの指揮者だった。パークホテルでは上等のツイン・ルームを用意したのだが到着するなり「和室に泊まりたい」と言い出してホテルをあわてさせたし、値段の高い部屋しか空いていなかった。奥さんは真駒内練習場にも付いてきて練習中もオーケストラの周りを廻って一緒に楽しんでた。ピアノの弾き振りでモーツァルトの協奏曲を軽々と演奏した。

同年5月第160回定期にカラヤン・ベルリン・フィルのフルート首席奏者をやめたばかりのジェイムス・ゴールウェイが登場した。真駒内での練習の合間もフルートを肩に担いでにこにこ楽しそうに楽団員と語り合った人物だった。ベルリン・フィルの首席奏者募集は招待制のオーディションなので飛び込みで受けることはありえないのだが押し掛けて頼み込んでオーディションを受け、並み居る名手を尻目に見事首席に受かったアイルランド系イギリス人で首席は6年間務めたがカラヤンと悶着をおこして止めた人だった。とてもいさかきをするような人には見えなかった。友人でマネージャーだと言う同郷の人を連れて歩いてた。演奏したモーツァルトとイベルは絶品だった。6月にはヴァイオリンの名手、イツァーク・パールマンが登場した。ポストンに住んでいた故潮田益子さんがパールマンの大喰いについて「我が家泊まると冷蔵庫を空にして行くのよ」と言っていたが、晩飯を2人前食べた後で、札幌へ行ったらラーメン横丁へ行くようにとセイジ・オザワに言われたからとラーメン横丁のはしごをした。まるで優しい手で頬を撫でられるような独特な甘い音色でチャイコフスキーの協奏曲を聴かせた。足が不自由なため松葉杖なので自分の楽器はコンサートマスターに運ばせ、定位置に着いたら受け取るのだが、本当に自分の楽器を返してくれたの、と大げさなパフォーマンスで演奏する前から会場を沸かせていた。(つづく)

ミニコンサート Vol.16 (11月10日)

ヴィオラ青木さんの「愛の歌」

青木さんの演奏は昨年、AQUA十カ尔特ットを聴いて以来だ。プログラムを開くとフンメルにヴェルターン?どちらも知らないけれど短調にハ短調、そして3曲目はロマンス。もしかして私好みの構成かも...と期待が高まる。最初に青木さんが曲の解説をしてくださる。「今日は愛がテーマです」なるほど...



青木さん(左)と新堀さん(右)

ヴィオラは声でいうとアルトだそうだが1曲目はテノールの歌。低い響きがホールを圧倒する。2曲目、高音から低音へとさまざまなヴィオラの音を聴かせてくれる。そしてヴォーン・ウィリアムスのロマンスは確かにアルトの歌だ。静かな静かなモノローグがおとなのロマンスを奏でて消え

た。最後はブラームス。新堀さんのピアノとたつぷりと歌いあげる。アンコールはラフマニノフのヴォカリーズだ。最後の最後まで私好み!私の部屋には今この楽譜が開いて置いてある。(置いてあるだけですけど...) 寒い日だったが、温かい響きをリフレインさせながら満ち足りて家路に着いた。(中居)

花束贈呈

コントラバス首席奏者 助川 龍さんが3月末で退団し、仙台フィルハーモニー管弦楽団に移籍しました。札幌くらぶでは、3月1日の定期演奏会B日程終了後、花束をお贈りしました。



2014/03/31 17:33

平成25年度 札幌楽譜支援金贈呈

2006年に札幌くらぶ創立10周年を迎えるに当たって札幌くらぶのこれからの10年の活動方針を検討するために、2005年6月に会員からのアイデアを募集、活動に関する勉強会を開催し、これを基に「札幌くらぶビジョン策定グループ」で札幌くらぶの会員が「札幌支援に何らかの形で参加している、あるいは貢献している」ことが明確に理解でき、実感できる施策として札幌事務局と調整のうえ、札幌の楽譜購入資金を支援する「楽譜支援」とすることにしました。

8年目を迎える2013年度の楽譜支援金は、2013年12月7日に開催された札幌くらぶのXmasパーティーの会場で、上田会長から小沢札幌専務理事に楽譜支援金50万円の目録

2013年度の楽譜支援金の収入は、年会費から161,500円、追加支援金332,500円(154名分)、交流会でのサイネ紙やビンゴカードの頒布などによる寄付金4,300円、合計498,300円となっています。

(事務局長 武藤義典)

別表 平成25年度 札幌くらぶ楽譜支援金楽譜購入内訳

作曲者	曲名	出版社	金額	消費税	計
シューマン	交響曲第1番(新版)	Breitkopf	65,229	3,261	68,490
ドヴォルジャーク	スラブ舞曲 Op46 1-4(新版)	Kalmus	53,820	2,691	56,511
ドヴォルジャーク	スラブ舞曲 Op46 5-8(新版)	Kalmus	37,275	1,864	39,139
ショーソン	詩曲	Kalmus	19,160	958	20,118
シベリウス	交響曲第4番	Luck's Music Library	42,130	2,107	44,237
シベリウス	恋人	Luck's Music Library	7,560	378	7,938
ベートーヴェン	ウェリントンの勝利	Breitkopf & Hartel	48,610	2,431	51,041
シューベルト	交響曲第7番「未完成」(新版)	Barenreiter	32,700	1,635	34,335
リヤードフ	パーバ・ヤガー	Luck's Music Library	16,670	834	17,504
ラヴェル	ツィガース	EZ Edition	69,700	3,485	73,185
R. シュトラウス	オーボエ協奏曲	EZ Edition	91,671	4,584	96,255
合計			484,525	24,228	508,753

Librarian 中村大志

札幌はサントリーホールで観客を魅了しました

札幌交響楽団東京公演を鑑賞
シベリウス交響曲第4番！人の心を抉り取るようなあの緊張感で魅了されたサントリーホールの観客達、そしてシベリウス交響曲第2番、美しい弦から大胆な終楽章への高らかな響きを残してくれた札幌交響楽団はシベリウスを余すところなく出し切った演奏でした。尾高さんが指揮棒を止め、おろすまで咳ひとつない静寂の瞬間が何よりも聴衆の満足感を表していました。

札幌交響楽団へのブラボーと拍手がやまず、私達札幌くらぶ東京公演ツアーメンバー8名も心ひとつで「どうだ！札幌のシベリウスだぞ！」と誇らしく思いました(笑)。演奏会終了後、演奏を聴いた首都圏会員と都響倶楽部メンバーと合流し早速ブレ交流会となりました。わが札幌大絶賛でした。梅まつりと旧岩崎庭園、美術館めぐり①、そして都響倶楽部と交流会 翌日は会員企画による美術めぐりと夜は都響倶楽部の皆さんとの交流会です。湯島天神の白梅・紅梅を見ながら、テレビドラマの舞台になった三菱財閥の旧岩崎邸へ、明治29年完成と聴きイギリス・ルネッサンス様式の建物に圧倒される一時でした。上野公園西洋美術館でモノ展、ムック版画展、東京都美術館特別展「世紀の日本画」を見て、都響倶楽部代表篠原さん以下5名と私達7名との



東京公演後サントリーホール前にて(3/5)

湯島天神のしだれ梅石、旧岩崎邸左(3/6)

交流会でまたもや札幌と都響のパトル自慢話とオーケストラファンをどう拡大するかなど楽しい交流でした。このような機会を設けていただいた篠原代表に感謝です。

美術館めぐり② 3日目は森美術館のアンディ・ウォーホル展などをめぐり充実した東京公演ツアーになりました。

私にとって、このツアーは札幌交響楽団を東京の皆さんへ宣伝できるチャンスでもあり、札幌くらぶ首都圏会員や都響倶楽部との交流であり、何よりも自分へのご褒美で、札幌ではなかなか見ることが出来ない芸術展との出会いです。メンバーも仕事や所用と兼ねての参加など様々ですが、楽しい3日間でした。都響倶楽部の皆さんありがとう！

札幌交響楽団素晴らしい演奏をありがとう！ (西川吉武)



都響倶楽部と交流会(慶楽にて。3/6)

ミニコンサート Vol.17 チェロ副首席 武田芽衣さん (12月23日)

井関楽器札幌スタジオウエイスタジオ、80席ほどが満席、大きな拍手に迎えられ、颯爽と武田芽衣さんと新堀聡子さんが登場です！武田さんは札幌交響楽団チェロ副首席、多くのファンを持ち期待の方です。ピアノ奏者の新堀さんはドイツ各地で活動後日本に拠点を移し演奏活動中。最初にベートーヴェンチェロソナタ第4番の演奏が始まります！彼女の生命力と一変します！彼女の生命力と一変します！彼女が眩しく大きな演奏です。エルガー「愛の挨拶」低い音で聴くのもいいものです。武田さんのトークで、ドイツ留学で静かな町の中に過ごしていると自分の中にある音の感覚も澄んでくるのを感じたと語り、印象に残る演奏会でした。(上野・井上・西川)



武田さん(右)と新堀さん(左)

随想 本棚の隅から 7

今年も新年早々にクラウディオ・アバドの計報を聞き、また一つの時代が終わったなど感慨にふける。

かすかな記憶の底に彼の姿を見たような？ と思いを総動員して探してみた。

ウイーン・フィルハーモニー管弦楽団

指揮／クラウディオ・アバド

1973年4月9日(月) 18:30

札幌厚生年金会館

プログラム

モーツァルト／交響曲第41番ハ長調K551「ジュピター」

ベートーベン／交響曲第3番変ホ長調作品55「英雄」

札幌ではこういうプログラム

か！と、その頃でも、ありふれたプログラムだと思つた。

「聴きなれた曲がどんな演奏するのか楽しみね」なんて生意気なことを言いながら席につき、あたりを見回すとみんな晴れやかに美しく着飾って知り合いとあいさつを交わしている。

舞台上に楽員がぞろぞろ出てきたとき「うわ、外国人ばかり！」と感動した。

まだ演奏の良し悪しがわかりもしない頃で、ただウイーンフィルを聴いてみたい、見てみたいという好奇心のほうが強かった。

40歳のアバドは颯爽としていて、夢のようなひと時だった。後にも先にもアバドをナマで見たの

先を添えて、「札幌くらぶ事務局」宛お送りください(あて先メールアドレスはページ目のタイトルの下を参照のこと)。

投稿は原則として「実名」でお願いいたします。匿名ペンネームではお受けしておりませんのひ、たい承んください。

次号の締切りは6月20日です。(事務局長 武藤義典)

は、一度きりだったので晩年の円熟した彼をテレビでしか知らないが…

1973年は札幌冬季オリンピックの翌年で世界中にサッポロの名が知られ、学術会議など開催され、音楽会、美術展も次々来日して、人々も華やかで生き生きしていた。高度成長期も終わりバブル期の狂乱までの安定していた時代、人々の生活も心も豊かで何の憂いもなく日々過ごしていた。あの日、私はおしゃれをして和服を着ていたので多少の人目を集め、連れが嬉しそうだった。つまらない事を思い出す。(井上明子)

会報への投稿を募集しています

演奏会の感想、交流会や札幌くらぶサロンに参加した感想、クラシック音楽に関する想い、出好きな曲、思い出の曲やオーケストラに関する事などの随想詩や俳句・短歌、会報などに関する投稿を募集しています。

投稿は、ハガキ、封書又はメールで、住所・氏名・会員番号(以上必須事項)・電話番号等連絡

スタッフの活動報告(1月～3月)

●第6回札幌くらぶサロン運営委員会

1月11日(土) 13:30～14:00

札幌事務局

担当/上野スタッフ

講師の札幌ステイジマネージャー 田中正樹さんと、当日のお話の内容と進行について打ち合せする。

●第5回札幌くらぶサロン開催

1月18日(土) 17:30

札幌市教育文化会館4階402号室

担当/上野スタッフ

会員29名、ゲスト2名が参加して開催、プログラムは、第1部は札幌を裏で支えるプロフェッショナル、第2部は札幌アーカイブシリーズ、3部は新年交流パーティー。

●会報「札幌くらぶ」第65号発送作業&第10回札幌くらぶ運営会議開催

1月24日(金) 15:00

●第12回札幌くらぶ運営会議開催

3月11日(火) 18:00

エルプラザ4階男女共同参画研究室2番

担当/西川副会長

スタッフ11名が出席し、平成26年度札幌くらぶ総会、平成26年度活動計画(案)、会報「札幌くらぶ」第66号の記事、中学生札幌定期演奏会招待事業、第6回札幌くらぶサロン等についての協議を行いました。

●第6回札幌くらぶサロン開催

3月29日(土) 17:30

札幌市教育文化会館4階402号室

担当/上野スタッフ

会員30名、ゲスト2名が参加して開催、プログラムは、第1部は札幌定期演奏会プレトーク、第2部は札幌アーカイブシリーズ、3部は交流パーティー。

(事務局長 武藤義典)

ていた。高度成長期も終わりバブル期の狂乱までの安定していた時代、人々の生活も心も豊かで何の憂いもなく日々過ごしていた。あの日、私はおしゃれをして和服を着ていたので多少の人目を集め、連れが嬉しそうだった。つまらない事を思い出す。(井上明子)

●札幌東京公演ツアー2014開催

3月5日(水)～7日(金)までの2泊3日で、8名が参加して実施しました。

5日はサントリールホールで札幌を鑑賞、都響倶楽部と懇親、6日は湯島天神の梅まつり、旧岩崎庭園、東京都美術館展、国立西洋美術館展を鑑賞、夜は都響倶楽部との交流会、7日は森美術館展を鑑賞しました。

編集後記

今号から第50号で止まっていた楽員インタビュー記事「プレイヤーズトーク」が内容を一新して「楽員さんに興味津津！」と改称して、新装第一回をヴィオラ副首席奏者 青木晃一氏にインタビューを実施、2ページにわたって掲載しています。

インタビューの休止は、第51号から編集体制が大きく変わり、経験の少ない編集担当者が多くなったことにより、編集経験を積んでから取り掛かろうと、その時期を伺っていたことでもあります。

また、会員から最近では楽員とのふれあいの機会が少なくなった、との意見も多くなり、今号から復活するための協議を重ね、インタビュー担当者4名を選出して、50号までに登場していない楽員さんを中心にインタビューを実施することにし、今号から実現しました。

2ページを割り当てることについては、運営会議で協議したところですが、皆様からのご意見も聞かせてください。(武藤)